



20川農振土発247号  
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

福島県双葉郡  
川内村長 遠 藤 雄 幸



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

このことについて、本村からは道路整備財源の確保について要望いたします  
ので、ご配慮くださいますようお願い申し上げます。

## ①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

## 道路整備財源の確保について要望

福島県においては、県民からのニーズを踏まえながら「福島県新道路計画」を策定し、県民が真の豊かさを実感できる、安心して安心な地域生活を支える道路整備及び管理に取り組んでいます。

また、本県が管理する国道及び県道の実延長は全国で第3位にありますが、その整備状況は全国で下位にある現状です。

道路特定財源が来年度から一般財源化されることになっておりますが、本県の厳しい財政状況下により来年度の道路整備等の予算は20%削減の方針が示されており、道路特定財源の一般財源化に伴い必要な財源がなければ、県土7つの生活圏を支える道路整備に大きな支障が生じることになります。

よって、地方とくに福島県における道路の現状とその必要性にご配慮いただきまして、県民の意見を十分反映させ、効率性や採算性のみで事業を圧縮することなく、道路整備及び道路管理に支障が生じないよう必要な財源の確保を要望いたします。

## ②-1 地域の現状と抱える課題

## ○現状

本村では、少子・高齢化、過疎化がますます進行しているなか、村民の生活意識も「物質的な充足」から「心の豊かさ」「生活の質的向上」へと大きな変化が起こっている。

近年の国際環境の変容や産業構造の転機が進む一方、バブル崩壊を契機に、これまで成長に支えられた社会経済のあり方が問い込まれ、地方分権や市町村合併の推進と同時に国際化、情報化などが進み、これまで経験したことのない時代の様相を呈しつつあり、意識の面でも自然との共生やゆとり、潤いといったことが重視されつつある。

このような背景から、村民の暮らしをどのように構築していくべきかを長期的展望に立って検討、議論し直す必要が生じてきた。

もとより、本村においては、緑豊かな美しい自然を守りながら、自分たちの暮らしを向上させてきており、わが村の歩みと村を取り巻く様々な状況を認識するとき、先人が営々と築きあげてきた「元気な川内村」に今一度思いをはせ、過去から現在、未来の各世代にわたる持続的な成長をつくり出していく必要がある。

## ○課題

・道路網 本村を通じる一般国道 399 号はじめ主要地方道小野富岡線及び村道等の改良率は 61%、舗装率が 79%であり、通勤、通学及び産業・経済振興と文化交流等地域の活力に直接結びつく基盤の根源である道路の整備が必要である。

・農業振興 村の基幹産業は農業であるが、零細農家が多いなか、新規就農者の減少、担い手の高齢化や従事者の減少傾向により、遊休地・耕作放棄地が年々増える一方で農業取り巻く環境は大変厳しいものになっている。

・少子・高齢化 過疎化が進行しているなか、人口 3,100 人、年間出生数は 20 人台、高齢化率は 33%を占め超高齢化社会に突入している。

高齢者の対応と活力ある地域社会をどう築くかが課題である。

・土地利用 総面積は 19.738ha で農地 4.7%、森林 87.9%、宅地その他 7.4%の利用割合であるが、林業の衰退で森林機能の低下と農業環境の悪化、地理的条件により企業誘致の活動も進まない現状で土地利用の調整など総合的な農村環境づくりが求められている。

## ②-2 地域の目指すべき将来像

## ○将来像

人と大自然が共に輝き 健康で文化の漂う活力のある村

## ○村づくり8つの基本目標

## (1) さわやか農村空間の村づくり

緑豊かな水源地域といった自然環境を活かしながら魅力を有するさわやかな農村空間を創造する。

①土地利用、②住宅、③環境、④景観

## (2) 豊かさの広がる快適な村づくり

豊かさの広がる生活環境の整備や安心して生活のできる魅力ある農村環境を創造する。

①上水道、②下水道、③ゴミ、④交通安全、⑤消防・救急、⑥防犯

## (3) 健康で安心して暮らせる村づくり

村民の豊かな人生基本は、健康な心身の育成であることから、健康づくりを推進し、少子・高齢化社会に対応した保健・医療・福祉体制の一本化と充実を創造する。

① 保健衛生、②地域医療、③児童福祉、④高齢者保健福祉、⑤障害遺児者福祉、⑥少子化対策

## (4) 心の豊かさとゆとりの村づくり

村民個人の学習活動を促すため、希望に応じた心の豊かさを育むことのできる環境を創造する。

①生涯学習、②義務教育、③芸能・文化活動、④生涯スポーツ

## (5) 地域資源を活かした村づくり

本村が持つ地域資源を活かしながら合意形成を図り、若者が定住できる活力のある産業を育み、山林都市「川内高原」構想の推進を創造する。

①農業、②林業、③水産業、④工業、⑤商業

(6)交流と活気のある村づくり

交流施設のいわなの郷、かわうちの湯を拠点とした活気のある村づくりを推進し、交通基盤を整備するとともに、情報・国際化に  
対処した高度情報ネットワーク構築に取り組む。

①観光、②道路、③電子自治体

(7)村民参加の村づくり

自分たちの地域は自分たちの手でつくるという村民活動を支援し、誰もが生まれ育った地域に誇りと愛着をもてる村づくりを目指す。

①住民自治の推進、②男女共同参画

(8)計画行政を推進する村づくり

計画的な行財政を運営するため、行政の見直しや事業の優先順位を明確化し、弾力的な行財政の基盤を図り、生活圏の広域  
化に対処し、広域的な視点からの施設整備や行政のネットワーク化を推進する。

①行政、②財政、③広域的連携

## ③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

## 地域活力の向上

## ○ 一般国道 399 号線

本村を縦貫している当路線は、本村といわき市を結ぶ重要な基幹道路である。道路状況は幅員が狭いうえ急勾配や極端な屈曲箇所が多く安全な交通の確保に支障をきたしているが、念願の改良工事(一部トンネルあり)が進行中であり、これが整備されれば、産業・経済・文化の交流と振興発展に繋がる期待が大きい。

## ○ 主要地方道小野富岡線

阿武隈高地の中部地域に位置する本村にとって道路は唯一の交通手段である。特に、浜通り地方の双葉郡から中通り地方への最短距離で結ぶ主要地方道小野富岡線は、地域住民の通勤・通学・通院・観光交流等の生活道路として欠かすことのできない最も重要な路線である。富岡町から川内村区間の5km 及び川内村からいわき市区間の5km が未整備であるが、平成 21 年度から改良工事が進められる予定であり、整備完成には厳しい交通事情の解消と福島空港までの通行時間の短縮等によって地域活力の向上になり、早期促進を期待したい。

## ○ 村道の整備

道路法に基づく本村の村道の総延長は124kmで改良率は58.2%、舗装率は 72.2%である。本村財政が厳しいなかで過疎対策事業及び辺地対策事業等の有利な起債の充当、電源交付金事業等により年次計画で改良・舗装工事を行ってはいるものの、未整備区間が多く村民のニーズに応えられる道路としては程遠い状態にあることから、地域住民の生活に身近な道路を優先に整備推進し、村民生活の向上を図っていく。統合小学校及び中学校近辺の村道を学校環境づくりと併せて整備し児童生徒及び村民の安全・安心と利便性を図った。